

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生建築&デザイン専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について	- 4 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生建築&デザイン専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役
業界関係者	中野 貴嗣	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ 設計関連センター センター長
業界関係者	高崎 強	株式会社 久米設計 九州支社 支社長
業界関係者	和田 義一	株式会社 大設計 代表取締役
業界関係者	及川 雅史	株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課長
業界関係者	松田 淳司	ゼネラルアサヒ コミュニケーションデザイン本部 企画デザイン部 部長
業界関係者	板橋 正志	株式会社 ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長
高 校	市川 仁士	福岡県立 福岡工業高等学校 校長
業界関係者	井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表
業界関係者	植田 義孝	ユーデザイン設計 代表
業界関係者	太田 昌宏	愛知産業大学 教授
地域住民	川藤 勝治	博多区博多駅南第4区自治会 自治会長
卒業生	和田 飛雄馬	平成31年度 建築工学科 卒業生
保護者	大塚 剛幸	建築工学科 在校生 保護者

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2020年 7月31日（金）14：00 ～ 17：00

場 所：麻生塾福岡キャンパス 10号館 4階 1041教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2018年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2019年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【評価結果・取組み状況】

- ・法人の教育理念を基に学校独自の教育理念を作成し、各共有会議、あるいは職業実践専門課程委員会において共通理解を持てるようコミュニケーションを図った。
- ・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについては、業界特性を踏まえつつ、求人募集をいただいた企業や採用実績のある企業の意見も参考に業界の環境変化に対する意見を収集し、検討材料としている。
- ・授業環境の改善に向けた状況把握として、学生による授業評価に加え校長代行による授業評価を行い、授業改善の課題検証を開始した。

【委員からの意見】

教育理念に基づいて、各科の教育目標が具体的な内容（現状の社会で求められる人材など）をもって掲げられている。学生評価のみならず、校長代行の評価も加えられ、様々な指標から評価が行われており評価できる。

【改善の方策】

- ・成績評価システムの品質向上のため、引き続き教育課程編成委員や教職員など関係者より意見を集め、ブラッシュアップに努める。
- ・学生数の増加と学生の多様化に対応できるよう、今後さらに理解しやすい工夫と学修の促進ができるオンライン教育を含め取り組み分析を行い、必要に応じ新たな取り組みを検討する。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取組み状況】

- ・学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像はホームページにて公表している。また、ルールブックへの記載、朝礼での唱和を通して、教職員に周知を図っており、学生には「学生便覧」に記し入学時の導入教育における必須要項として共有を図っている。
- ・社会の変化に対応できる良識とスキル・知識を備え、常に挑戦する意欲に満ちた専門職として、また一度の人生を大切に思い、感謝心を持って社会貢献できる人材=グローバルシティズンを育成することを目標として、麻生塾生としてふさわしい態度や考えの指導に取り組んでいる。

【委員からの意見】

GCB教育があることで、建築の知識やスキルを学習するだけでなく、社会人としてあるべき姿や人に対する感謝心などを養うことができしており、社会貢献への意識・ボランティア精神の醸成がなされると良いと思う。また、教育理念等はホームページで外部公開されている。学生へも便覧で周知徹底されており、十分に理解できる内容となっている。

【改善の方策】

- ・引き続き職員に対しても、朝礼、定例会議等において周知を徹底する。
- ・グローバルシティズン教育を通じて継続的に目指す人材像を育んでいく。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取組み状況】

- ・学校の理念に沿った運営方針・事業計画は教職員対象のキックオフミーティングにて公表され共有している。
- ・学校の管理・運営体制は関連部署教育推進部署等との連携のみならず、定期的に責任者会議・教務会議・部門会議の実施により組織的に運営されており、各種規定・マニュアルを整備し適切な運営体制を整えている。
- ・校務分掌、行事・検定・授業などの業務上の役割分担表・職務分掌業務の内容および責任・権限を作成、文書化し周知・遂行している。

【委員からの意見】

- ・運営方針や事業計画は教職員に情報共有できていると理解できる。
- ・今後の検討として、会議のオンライン化・文書類の電子化について検討が必要ではないか。

【改善の方策】

- ・会議のオンライン化及び文書類の電子化については必要と考え今後強化し取り組んでいく。
- ・今年よりオンライン会議を実施しており今年得たノウハウを改善に生かしていく。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取組み状況】

- ・各科目シラバス書式を刷新し再整備を行い、作成したシラバスは、明文化のうえ共有を図っている。
- ・カリキュラムポリシーを基に教育課程編成委員会（年2回）にて意見や評価を実施し、見直しを行なっている。
- ・現場見学・職業体験・インターンシップによるキャリア発達を促し、キャリア形成をより具体的にするための指導を行い、社会的・職業的に自立に向けた教育を行っている。
- ・学生数増加に対しても対応を図り、新任の教員には指導役となるチューターがつき OJT にて臨んでいる。

【委員からの意見】

- ・インターンシップや現場見学などの連絡は担任よりクラスの学生に伝達し積極的に参加されている。
- ・今後の検討としては、教員による企業見学の実施及びリーダーシップなどのヒューマンスキル向上のための活動についても記載する必要がある。

【改善の方策】

- ・カリキュラム会議の時期、頻度を再度検討し、定期的な検証につなげる。
- ・教員間のチェック体制を設け、情報交換の機会を拡充する。また、必要に応じて企業見学や研修等の計画を立案し改善に結びつける。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取り組み状況】

- ・学生数の増加のため、多様性のある対応が求められている。
- ・毎年、キックオフミーティング時に各種目標を共有している。そのうえで分野別・学科別で組織的に取り組んでいる。また逐次、状況の把握および対策を実施している。
- ・就職率については、毎年100%に近い就職率を維持することができているうえで、業界優良企業へも多くの学生が就職できており、就職の質としても成果をあげている。

【委員からの意見】

- ・就職活動にあたっては、就職担当の教員やクラス担任の教員による面接指導や企業研究に対する適切なサポートがなされている。
- ・学生増加に伴う様々な対応が必要となると考えられる。
- ・学生に適した就職情報の提供のため、就職担当を中心に毎週、就職情報共有会議を行い、そのうえで適宜学生に案内を行っている。

【改善の方策】

- ・学生数の増加とともに多様性のある学生も増加しているため、個別の適切な対応を検討する。
- ・就職活動において適切なサポートを継続できるよう就職担当及びクラス担任による面接指導や企業研究に対する指導を継続していく。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取り組み状況】

- ・入学前から卒業後まで教育推進グループ、広報グループ、就職グループ、学生支援グループ、日本語教育センターなどにより、学生の修学支援、進路支援を行っている。
- ・経済面の支援制度として、学費分割納入制度など、各種の支援制度を準備している。就職支援では、就職専門職員による就職指導や担任による求人票や企業情報の提供を行っている。
- ・卒業生に関しては、求人の再斡旋や就職相談などのキャリア支援を行っている。また、学生の課外活動支援として、部活動やサークル活動を行っている。

【委員からの意見】

- ・卒業生に対しての支援は心強く感じます。
- ・高等教育無償化が推進されていることは評価できる。
- ・可能であれば部活動の一環として、サイトの運営または、YouTube などネット広告に取り組むことで、収入を得て経済的に一助になりはしないだろうか。学びにもつながると思う。

【改善の方策】

- ・学生数・クラス編成の変化に対応した修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制の検討を継続して実施していく。
- ・学生の課外活動支援及び部活動やサークル活動についても内容を確認し学びに繋がるよう取り組む。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取り組み状況】

- ・設置基準を遵守し整備して運営を行っている。学生数の増加による教室見直し及び設備の補充・修繕を行い環境の維持に努めている。
- ・総合的図書室およびキャリアサポートセンターの運用については、それぞれの専門分野に関する資料を設置し、教職員、学生の利用ができる状態になっている。
- ・現場見学・インターンシップといった現場に触れる機会をより多く創出できるように努めている。また現場見学・インターンシップ実施前には、事前教育として安全管理を含めた指導を行っている。
- ・安全管理の整備においても、管理者を設定し、危機管理マニュアルを作成している。また、毎年避難訓練の実施し、防災、防犯設備の点検や避難経路の掲示、など教員・学生への周知徹底を図っている。

【委員からの意見】

- ・設置基準を含めしっかりと取り組んでいるため問題ない。
- ・現場見学及びインターンシップなど現場に触れる機会は、学生にとって貴重な経験となり学生の満足度向上にもつながる。

【改善の方策】

- ・図書館に所蔵している専門分野の図書の拡充を図る。
- ・インターンシップ先企業との関係書類の取り交わしを含む、規定のマニュアルに沿った事前・事後の調整とサポートを着実に運用していく。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取り組み状況】

- ・アドミッションポリシーを募集要項にて公表し、適正に募集活動を実施している。
- ・選考方法は募集要項に明記し、かつ選考基準を定め、適正に入学者選抜を行っている。
- ・法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定を行っている。
- ・金額変更などの決定事項は議事録に記載し、校納金シートや募集要項へ正確に反映させるとともに関係部署への情報共有を行っている。

【委員からの意見】

- ・実施内容を評価でき問題ない。
- ・コロナウイルスが長期化した場合の募集方法をどうするか検討が必要。

【改善の方策】

- ・カリキュラム会議・学科検討会議の中で、設備環境・授業形態にあった適正な定員であるか検討し、継続的に見直しの機会を設ける。
- ・コロナウイルスの影響も考え、オンライン技術を検討し入試等への導入を検討していく。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取り組み状況】

- ・財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。
- ・学校の財務面の管理運営については、予算計画を策定し、月次における予算決算管理および昨年度対比による分析を必要に応じて行っている。
- ・分析の中で重要な差異が生じた場合等には原因の特定や問題点の把握等を行い、適切に対応している。
- ・監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。
- ・情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【委員からの意見】

- ・財務基盤が安定しており財務整理もしっかりしている。

【改善の方策】

- ・学校の財務面の管理運営については、予算計画を策定し、月次における予算決算管理および昨年度対比による分析を必要に応じて継続していく。
- ・固定資産管理規定に沿って適切な財務管理を進め、月次での予算管理の実施を継続していく。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取組み状況】

- ・専修学校設置基準・法令等を遵守し、関係部署との連携を行い適正な学校運営を行っている。
- ・グループ校と統合的に機能している本部組織と、学校単体の部門として機能している部分の役割分担をもって取り組んでいる。また、学生には学生便覧に個人情報保護基本方針やハラスメント防止に関する記載し理解を促している。

【委員からの意見】

- ・ハラスメントについて学生や講師から意見・相談ができるシステムがあり良い。
- ・設置基準に基づいて適正に運営されている。

【改善の方策】

- ・ハラスメントに対する相談アドレスの周知を促していく。
- ・教室設備など学生数に応じた対応を行い、継続的に学科検討会議で検討し学生数増に対応すべく適正化を図っていく。

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取組み状況】

- ・学校教育，学校運営について、教育推進部グループ主導のもと毎年、自己点検・評価を実施し、課題解決に取り組んでいる。
- ・職業実践専門課程の基準を基に学校関係者・教育課程編成委員会を開催し教育に関する検証を行っている。改善指摘事項については内部監査を実施し検証されている。これらの情報は Web サイトに公示している。

【委員からの意見】

- ・内部監査がしっかりと実施されている。
- ・自己点検評価の実施により、改善計画がなされている。

【改善の方策】

- ・今後も自己点検委員を中心として、自己点検・評価活動の精査と改革・改善体制の充実を図る。
- ・自己点検活動への理解促進を進め、教育の質を保証する仕組みを継続していく。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取組み状況】

- ・学生のボランティア活動は推進委員会を設置し、グローバルシティズン教育の方針に沿って多様な機会を提供している。
- ・業界に広く貢献していくためにグループ校と連携して高校生、中学生、留学生向けに職業理解のためのイベント「お仕事スタジアム」を毎年実施している。
- ・本校の学生で構成される「建築サークル」の活動を通じ近隣地区である博多区美野島の商店会と連携した活性化イベントへの協力や、市内の歴史的建築物の保存会への協力などを行っている。

【委員からの意見】

- ・建築サークルによる美野島商店会のイベントや市内の歴史建築物の保存会への協力は、地域に対する貢献として非常に良いと思う。

【改善の方策】

- ・今後も視野を広げ新しい活動を進め、業界・地域からも期待されている専門学校グループの特性を活かした学校を目指す。また、学校グループの枠を超えた全体での取り組みも積極的に継続して実施していく。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適性

【評価結果・取組み状況】

- ・留学生の在籍管理やビザ更新に関しては、日本語教育センターと連携し法令を遵守し適切に対応している。また、留学生の就職支援においても就職支援グループと担任間での連携を図り支援を行っている。学則には学生便覧に外国人学生規定を明記し学生へ周知している。
- ・在学生の海外教育機会としては、学生便覧に海外留学に関する要綱を記載し、海外留学支援制度について紹介している。
- ・グループ校と同期しながら本部・事業開発センターを中心に留学先の確立、教育体制の担保、安全対策など各種サポートを行っている。
- ・海外留学プログラムの作成、学生・保護者への説明、出発前オリエンテーション、危機管理シミュレーション、出発時・留学中のサポート、帰国後報告会等を実施しており、海外留学プログラムに対する支援は適切に行っている。また、法人と派遣先教育機関との間でアグリーメントを締結し、契約期間終了時には契約の見直し／更新を行っている。それぞれの担当者を明確化し、担当者同士で常に情報共有し、連携体制を確立している。

【委員からの意見】

- ・留学生プログラムについては、より学生や保護者の意見や要望を反映したものになるよう充実を図ってほしい。
- ・コロナウイルスが長期化した場合の留学生支援について検討が必要であると感じた。

【改善の方策】

- ・現状では留学生・留学ともに数が多くはないため、国際交流センター・就職グループなどと連携し、情報の共有を進めることで教務全体での理解力およびサポート力を高めていく必要がある。
- ・留学生プログラム内容をより学生や保護者の意見を反映してほしい要望もあるため内容について確認し取り組んでいく。
- ・コロナウイルスが長期化した場合の留学生支援についても検討していく。